

令和6年12月27日

熊本白菊会会員および成願者ご遺族の皆様へ

熊本大学医学部形態構築学講座（解剖学担当）
教授 福田孝一
熊本白菊会会長
江富 聡

海外において美容外科医によるご遺体を用いた許し難い行為があったことが、インターネット上で明らかとなりました。見聞された熊本白菊会の皆様ならびに成願された方のご遺族様の中には、不安を感じていらっしゃる方々もおられるかと存じます。皆様にご安心いただくために、解剖学実習の責任者として、熊本白菊会江富会長とともに、ご説明いたします。

熊本大学をはじめ、全国の大学医学部で行われている解剖学実習は、あのような行為とは全く無縁です。日本の医学教育における解剖学実習は、日本の法律に基づき厳粛に行われており、医学生は献体された方への最高の敬意を払い、真剣な気持ちと真摯な態度で取り組んでおります。もちろん熊本大学においても、学生は、自分達が学ばせていただくご遺体に対して、深い感謝と責任感を持ち、真摯な気持ちで毎回の実習に臨んでおります。その様子は、毎年発行される会報「くまもと白菊」に掲載されている「学生の感想文」をお読みいただければ、はっきりご理解いただけるものと思います。

インターネットの普及が社会のあり方を大きく変えましたが、ネット社会にどっぷりと浸かっている学生気質も昔とは異なってきていることに、私（福田）は当初から十分な注意を払ってまいりました。具体的には、毎年の実習において、「ご遺体の尊厳を損なわないために、実習の内容をインターネット等には書き込んではいけない、スマートフォンやカメラの持ち込みは禁止し写真撮影は厳禁する、ましてインターネットなどに画像を公開することは絶対にしてはいけない」ということを、実習の初日に徹底して厳しく指導しております。熊本大学の学生はこのこととその精神を深く心に刻み、実習の期間にとどまらず、卒業後も生涯にわたって、解剖させていただいた方への敬意を忘れずに医師としての勤めを果たし続けてくれると信じております。現に私が熊本大学に就任してからの15年間、インターネットにご遺体について何かをさらすというようなことは、全く起きずに現在に至っております。熊本白菊会の会員の皆様と、すでに成願された方々のご遺族の皆様におかれましては、社会問題となっている一美容外科医の愚かな行為やそれに類することは、熊本大学医学部では起こり得ないことをご理解いただき、どうぞご安心なさってください。

さらに、熊本白菊会会長からの言葉を記させていただきます。

「熊本白菊会は、熊本大学医学部と歴史的、伝統的に強固な信頼関係で献体への協力をいたして参りましたし、この先も、どのようなことが起ころうと「熊本における医学の発展を願う」という基本的な姿勢はかわりません。私たち「熊本白菊会」は熊本大学医学部を、日本の献体制度を「信頼し」「すべてを託しております」。熊本大学医学部はそれに十分お応えいただいております。熊本白菊会の皆様、ご遺族の皆様、熊本大学医学部を信頼してすべてを安心して託そうではありませんか」

今後とも、熊本大学医学部における解剖学教育へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。